

別子山村 日浦登山口 2012.10.27.

旧別子銅山の産業遺産を訪ねつつ、
別子山を新居浜側に越えてゆく
銅山越・銅の道walkのスタートです



日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口

2012.10.27.



旧別子銅山案内図
(別子山)



自然を大切に

新居浜市 平成18年



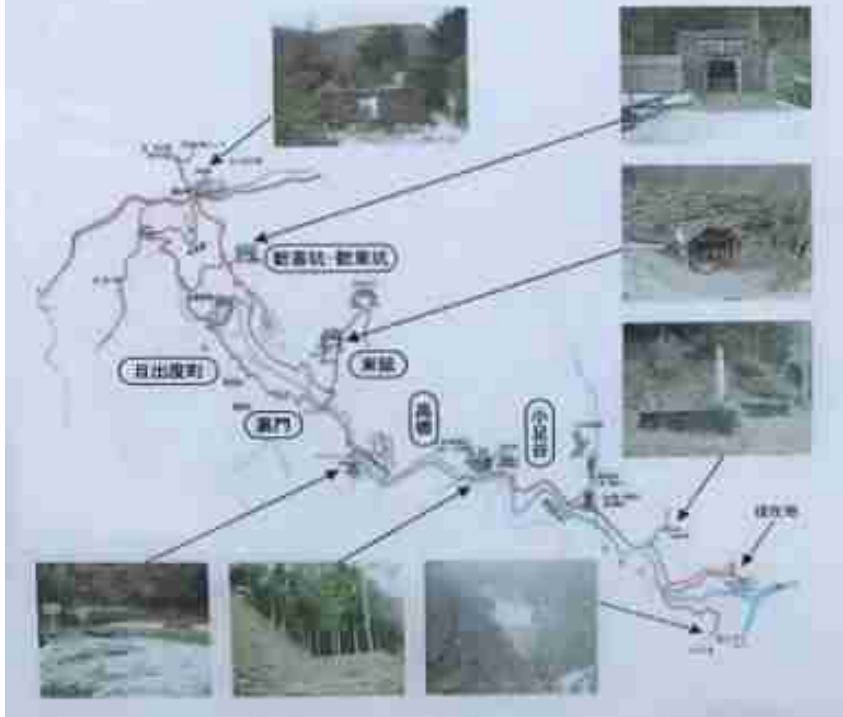


銅の道・銅山越 旧別子銅山跡 日浦登山口入口 2012.10.27.

旧別子登山口

旧別子とは過去に繁栄した別子銅山の跡と言った意味である。この高さは海拔約800m、銅山峰は約1,300m、高度差約500m、道程にして約3.2kmの間に元禄時代から大正5年まで225年にわたる間の無数の産業遺跡が眠っている。それらの遺跡をたどれば、今日の住友グループ、そして工都新居浜発展の原点は、ここ旧別子にあるということが想像できる。

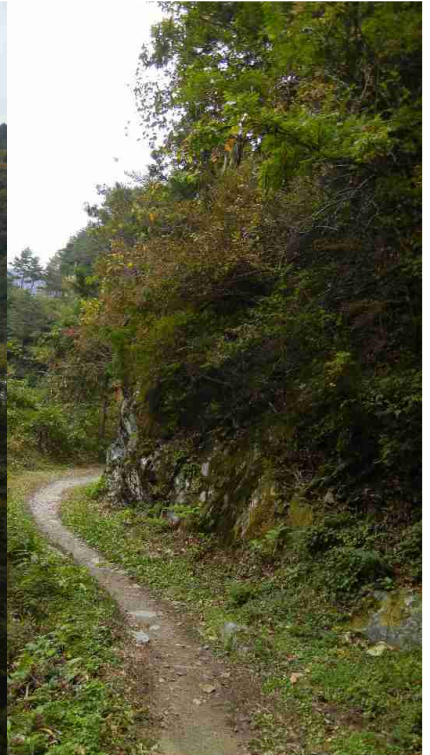
この辺りは吉野川の支流銅山川の源流域で、各所の河川の水は西側にある別子ダム(有効貯水量542万トン)に貯水してトンネルで新居浜側へ送り、発電や農・工業用水として利用されている。別子ダムは新居浜市の貴重な水脈である。



登り口にあった別子ダムと旧別子銅山登り口の案内板

また、登り口で出会った土地の人は 昔 銅山が華やかな頃には 日浦からは通洞の中を走る電車があり、銅山越せず、この電車で東平によく出たもので、別子山村は今よりもっと便利だったと。





銅の道 銅山越・旧別子銅山跡 登山道 白浦入口周辺 2012.10.27.





銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.
登山道では 旧別子銅山の遺構が残る場所 それぞれに遺構案内板が整備されている



銅山越

別子銅山跡

円通寺跡周辺

2012.10.27.

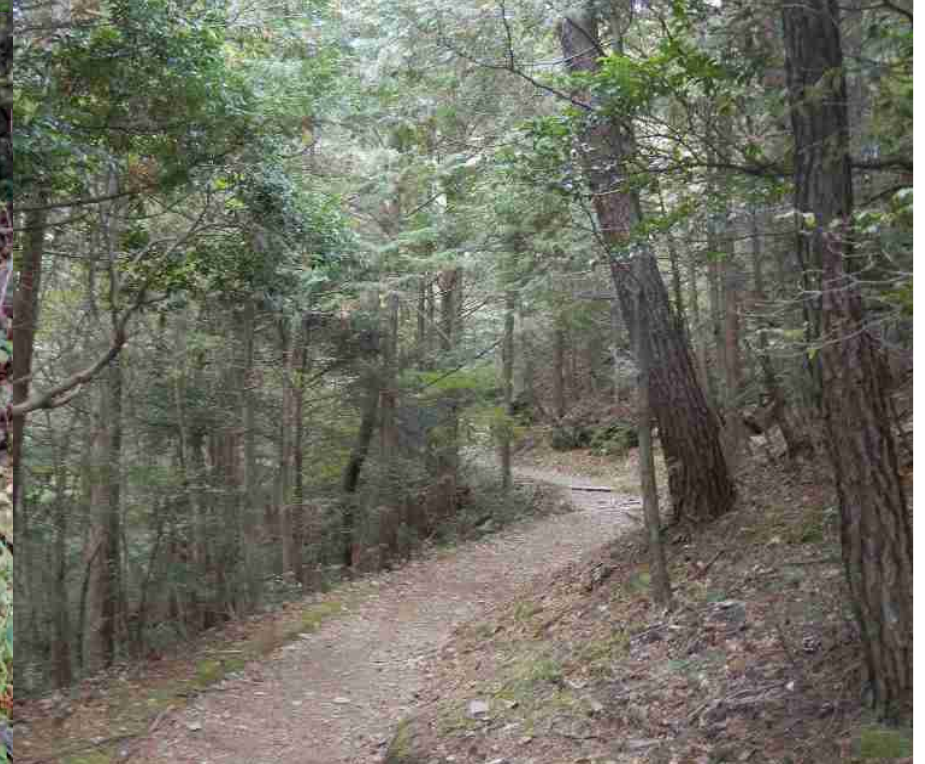
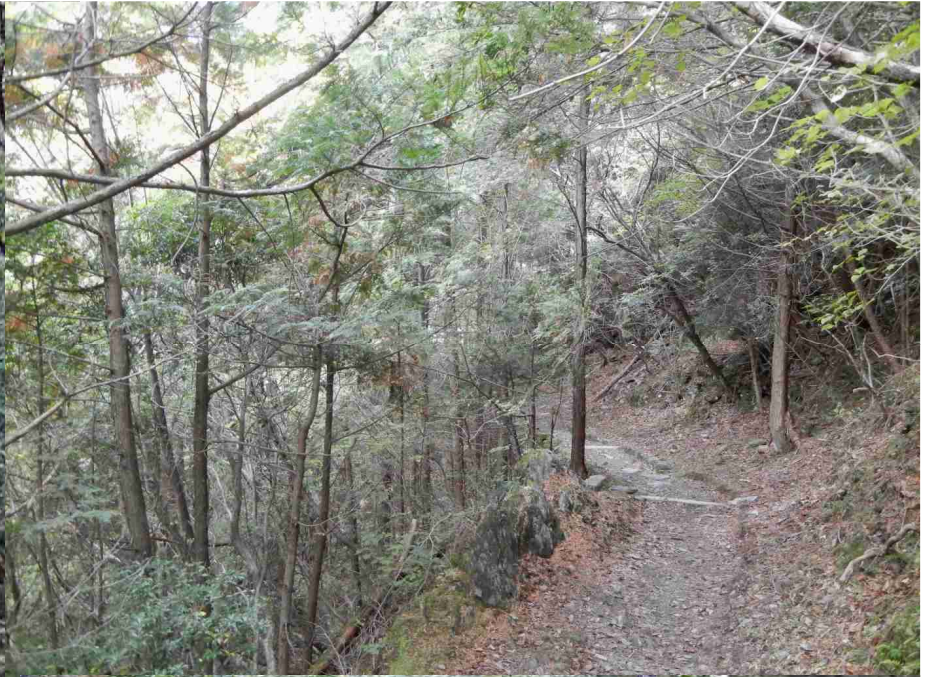


銅山越

別子銅山跡

円通寺跡周辺

2012.10.27.









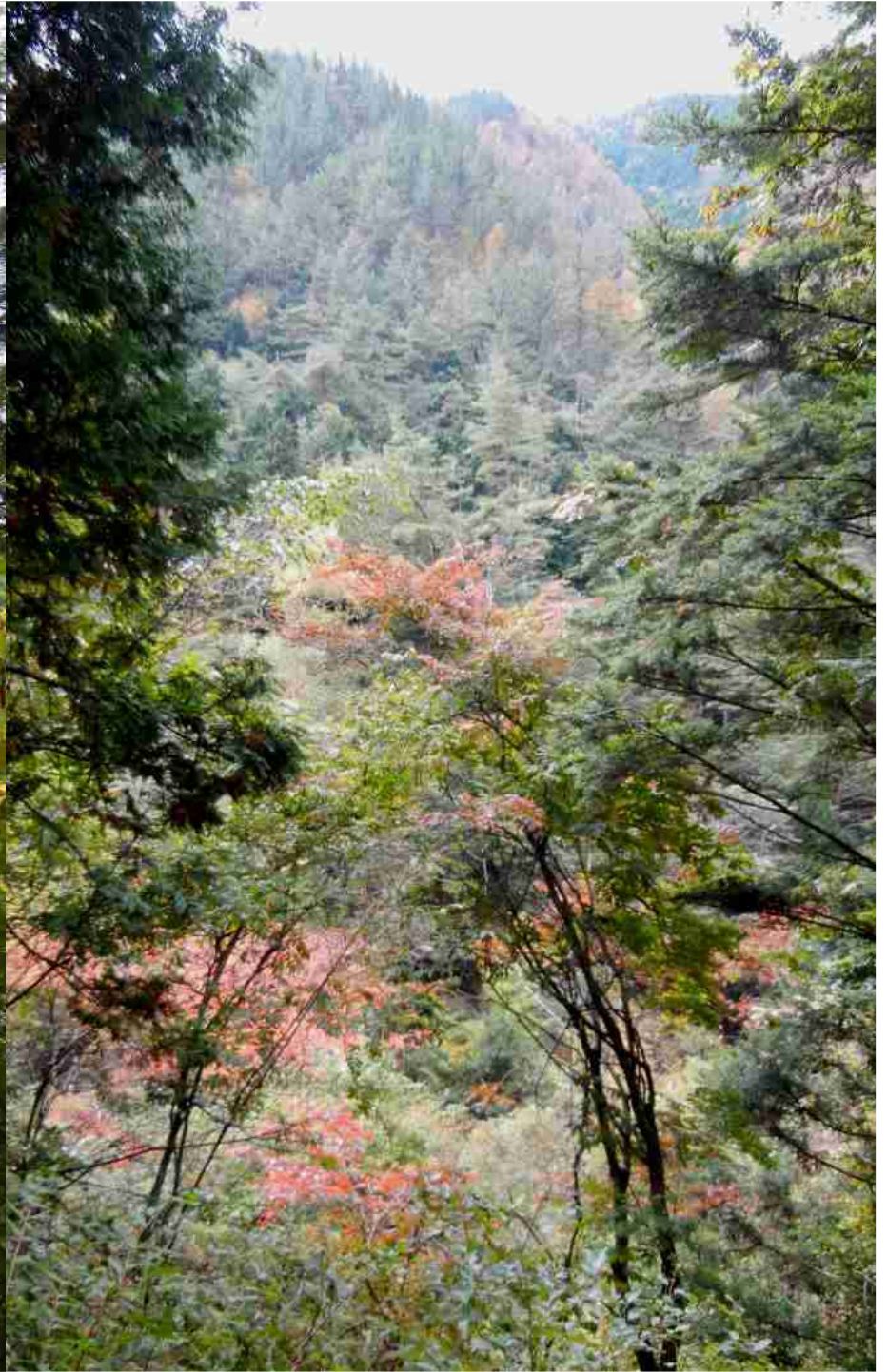
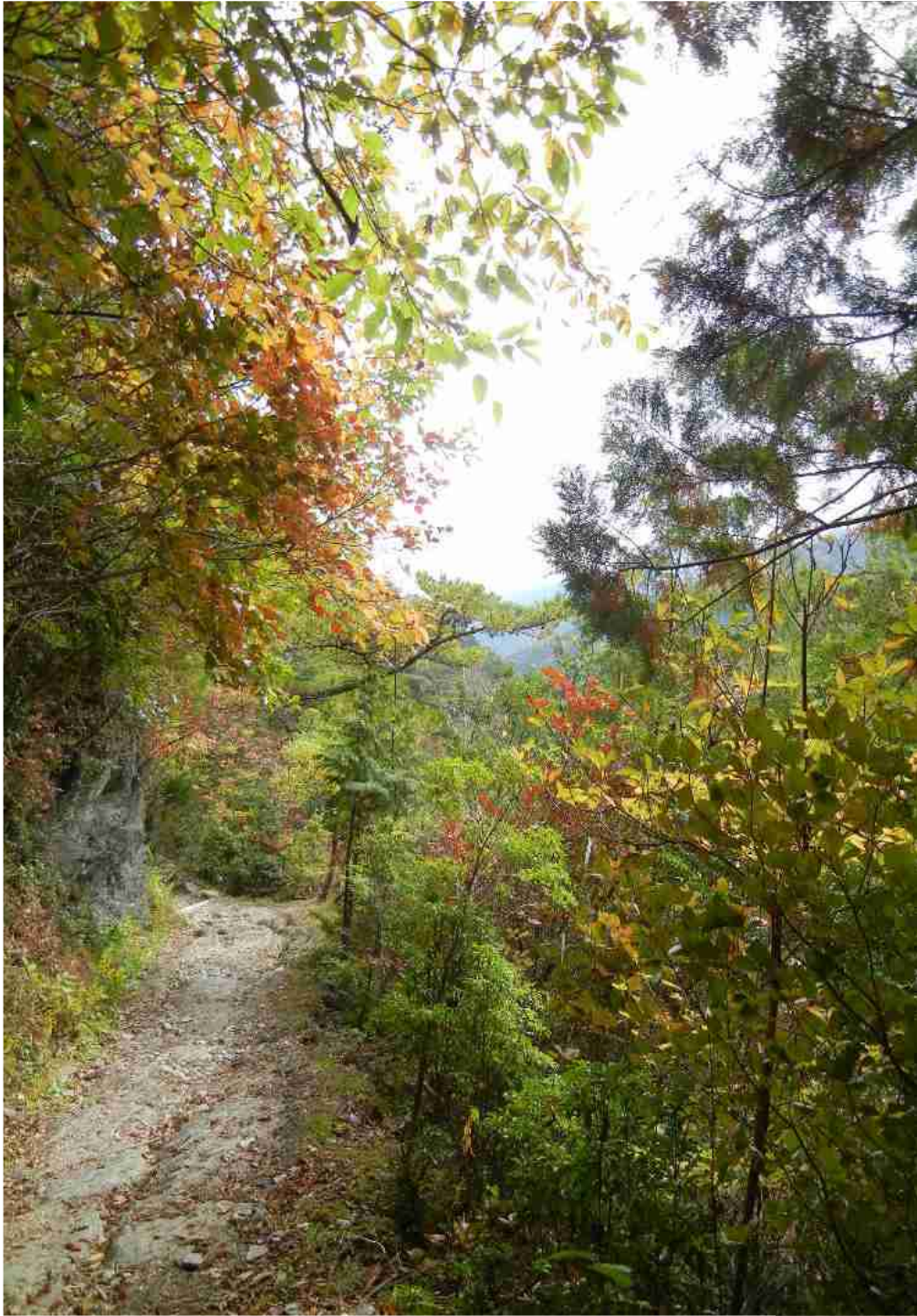
小足谷集落跡と味噌・醤油醸造所跡周辺



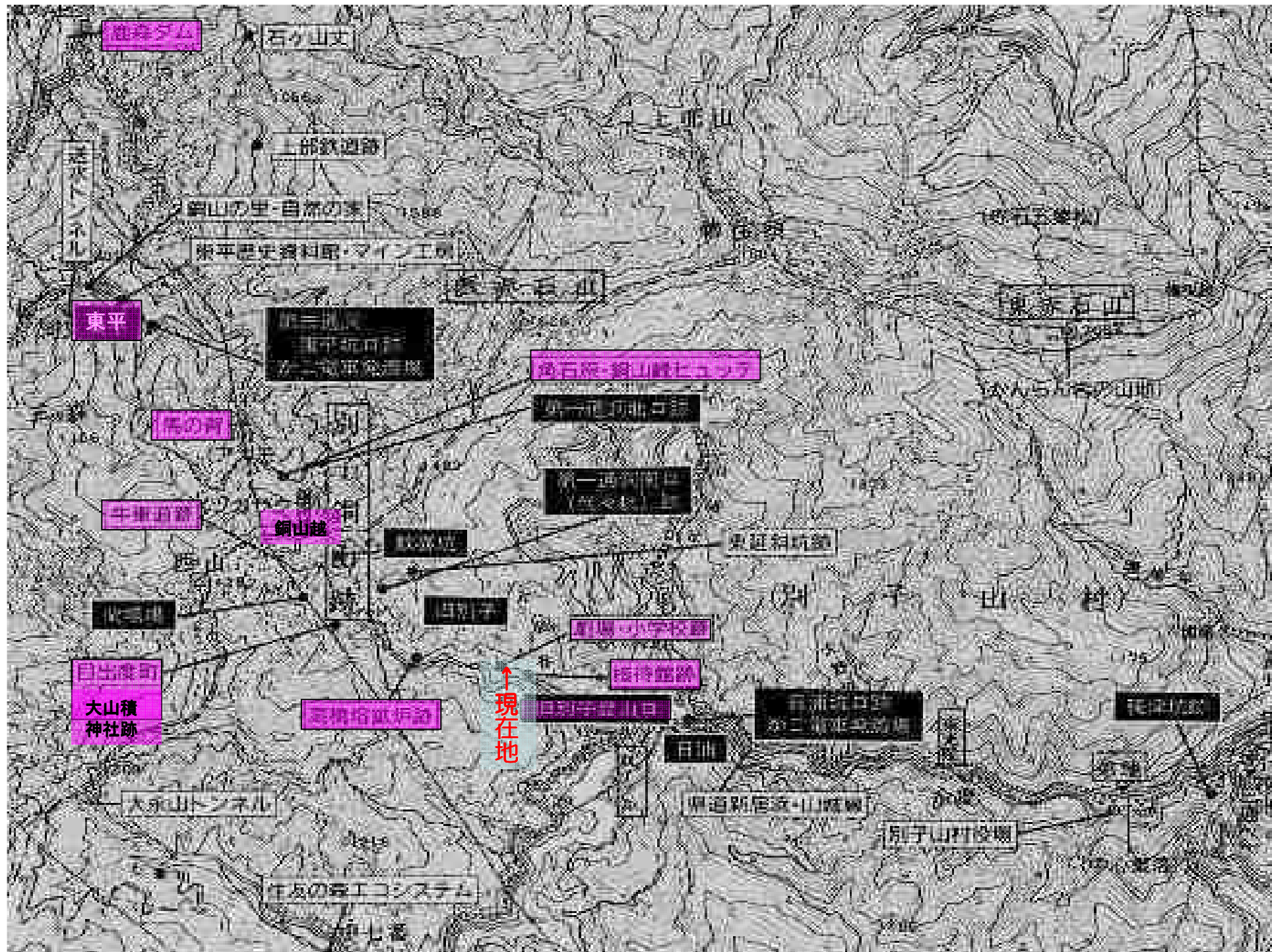
接待館跡周辺



接待館跡

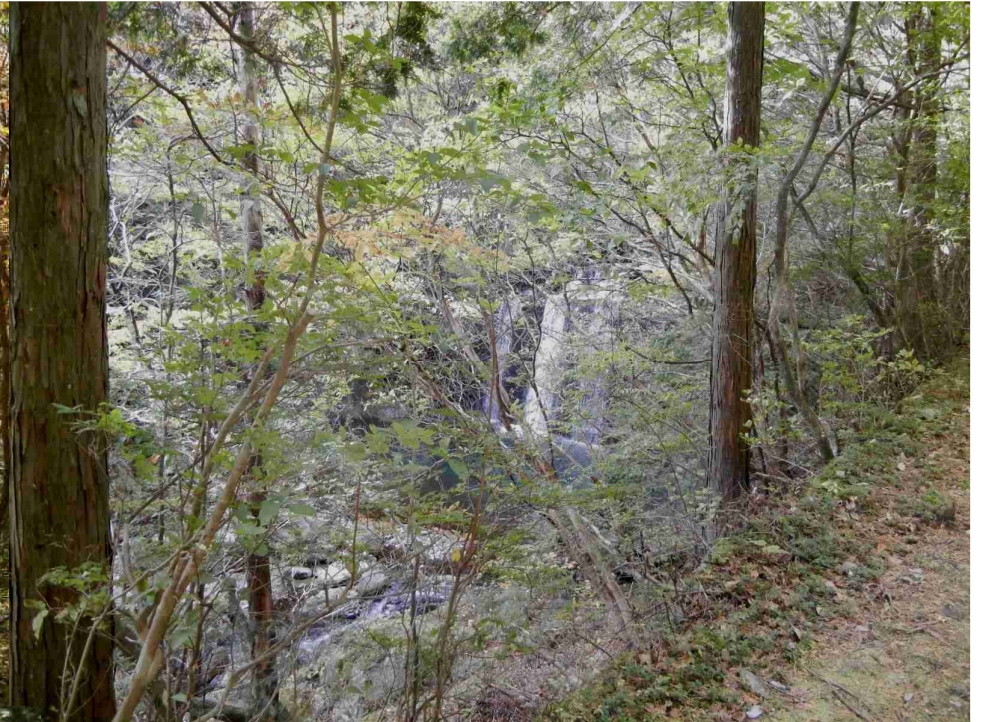








小学校跡





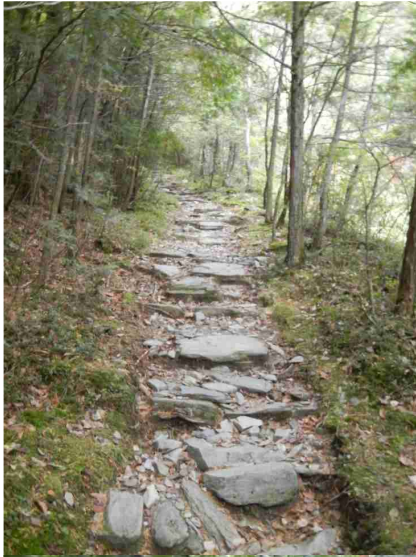
測候所跡



劇場跡と大階段









溶鉱炉があった高橋地区周辺 2012.10.27.

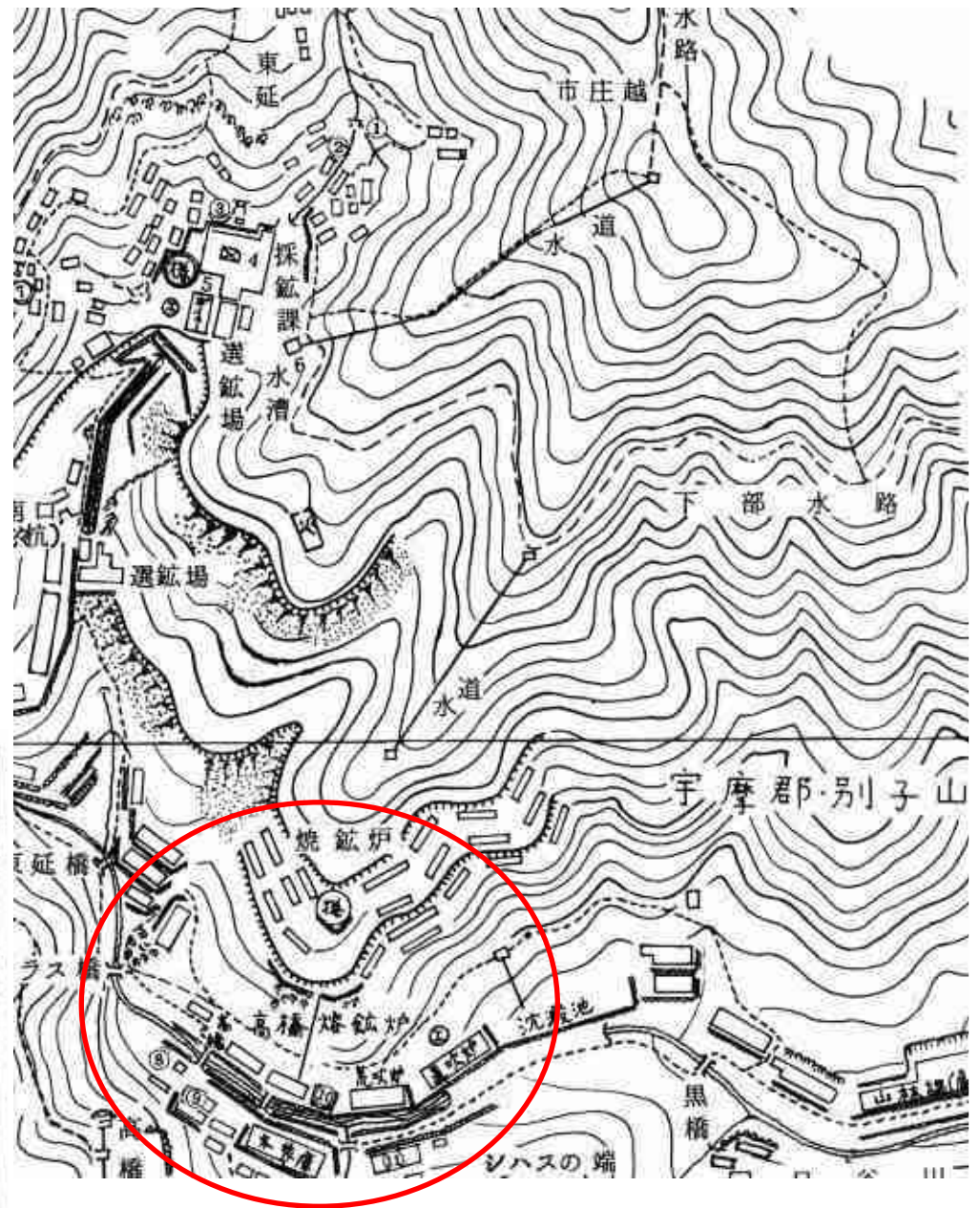
高橋製錬所と沈澱工場

対岸の高い石垣は高橋製錬所跡である。この石垣は更に300m上流まで続いているが、この対岸には明治20年代になって建設された洋式焙鉱炉(左)と沈澱工場(正面)があった。明治28年から政府は環境問題に規制を設け、製錬の際に出る鉱滓を直接川に流さないことにした。そこで製錬所前には暗渠を築いて流水を伏流させ、その上に鉱滓を捨てていたのだ。一時前の谷は鉱滓堆積広場になっていた。それが、明治32年(1899)の風水害で堆積広場は流され、暗渠も大半が潰れて元の谷川に戻った。ここに残る暗渠は当時の様子をかすかに伝えている。

正面には沈澱工場とって、銅の品質が低い鉱石を砕いて粉末にし、水を使って処理する湿式取銅所があったが、明治32年の水害以降その設備が小足谷に移ってからは、自出度町の近くにあった住友病院が一時期移転していた。

※鉱滓：鉱石を製錬する際に生ずる不用品





当時の別子銅山 高橋製錬所周辺の様子



銅山越 別子銅山跡 高橋製錬所跡

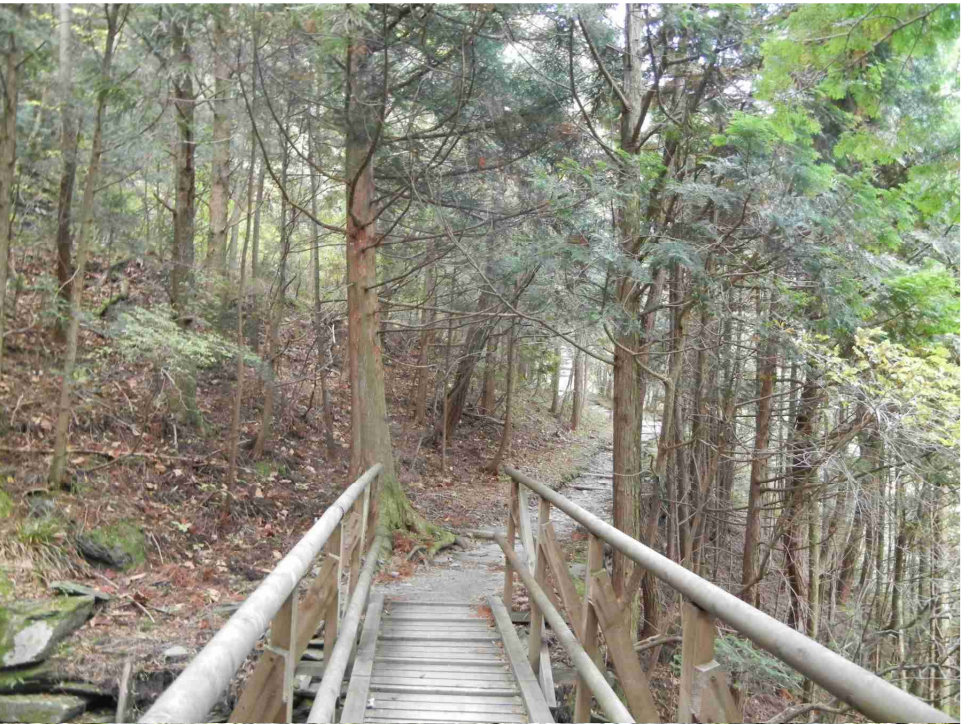
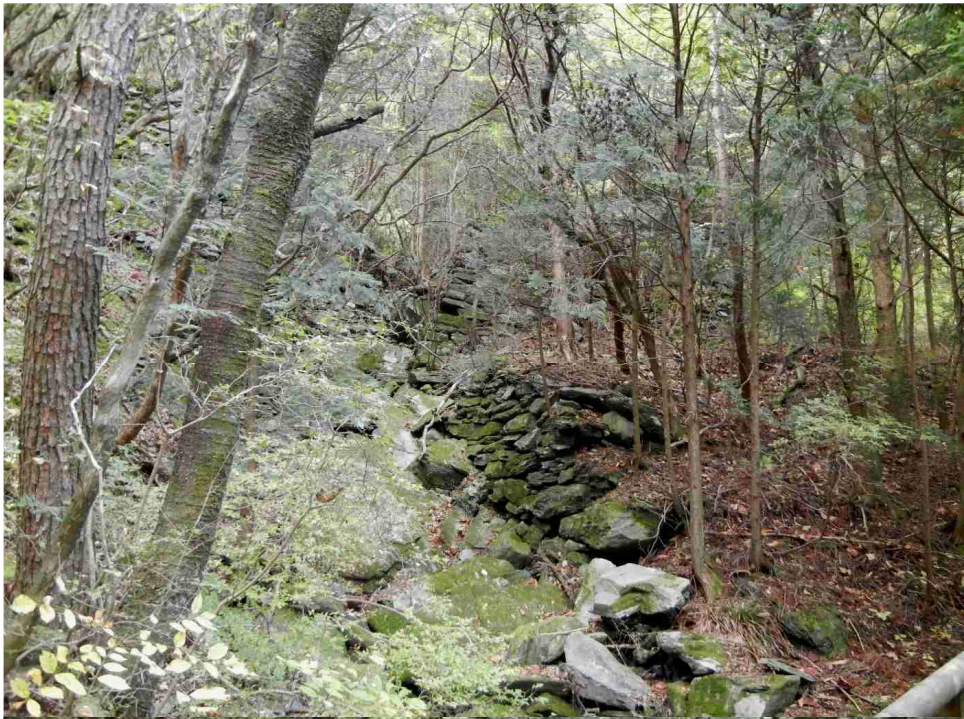
2012.10.27.





前の谷川に崩れ落ちた高橋溶鉱炉 暗渠跡







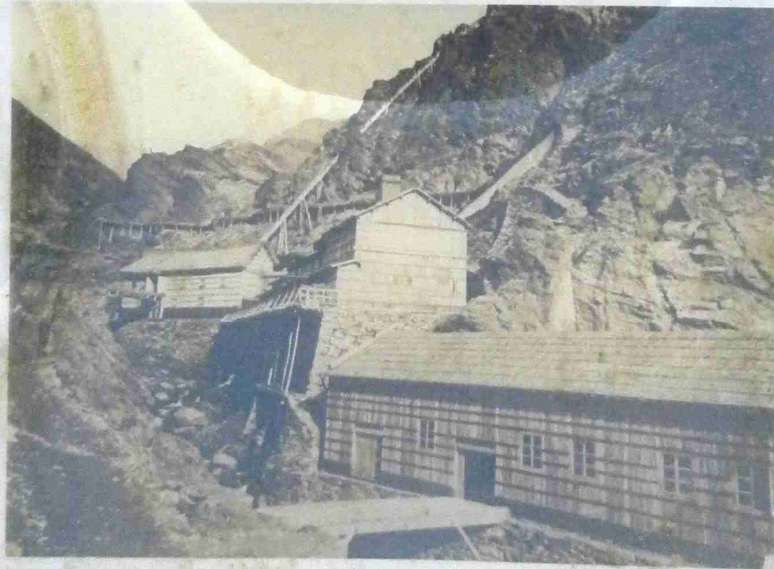
かつて製鋳課などがあつた高橋ダイヤモンド水の入口 2012.10.27.

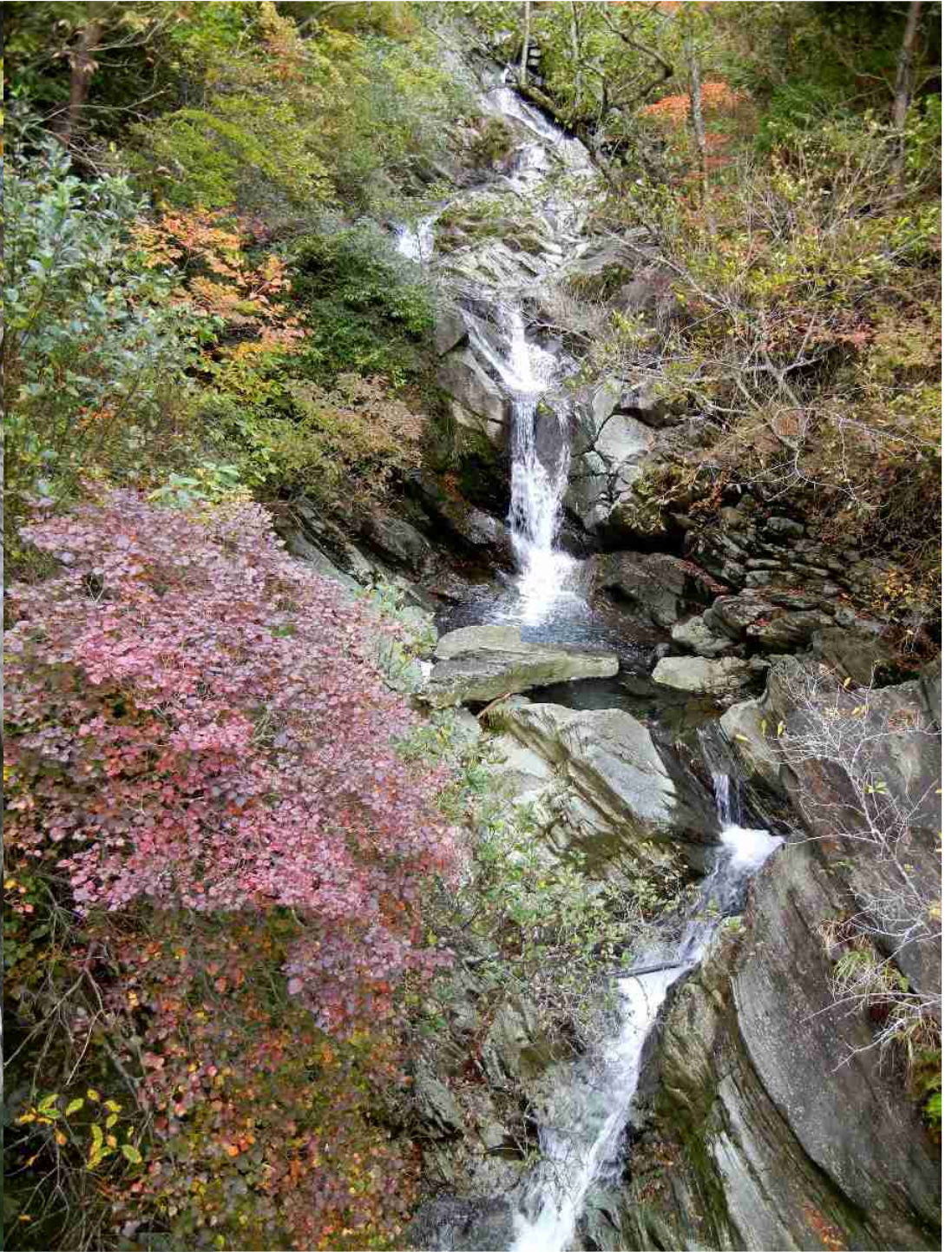
たかばし

高橋熔鋳炉とダイヤモンド水

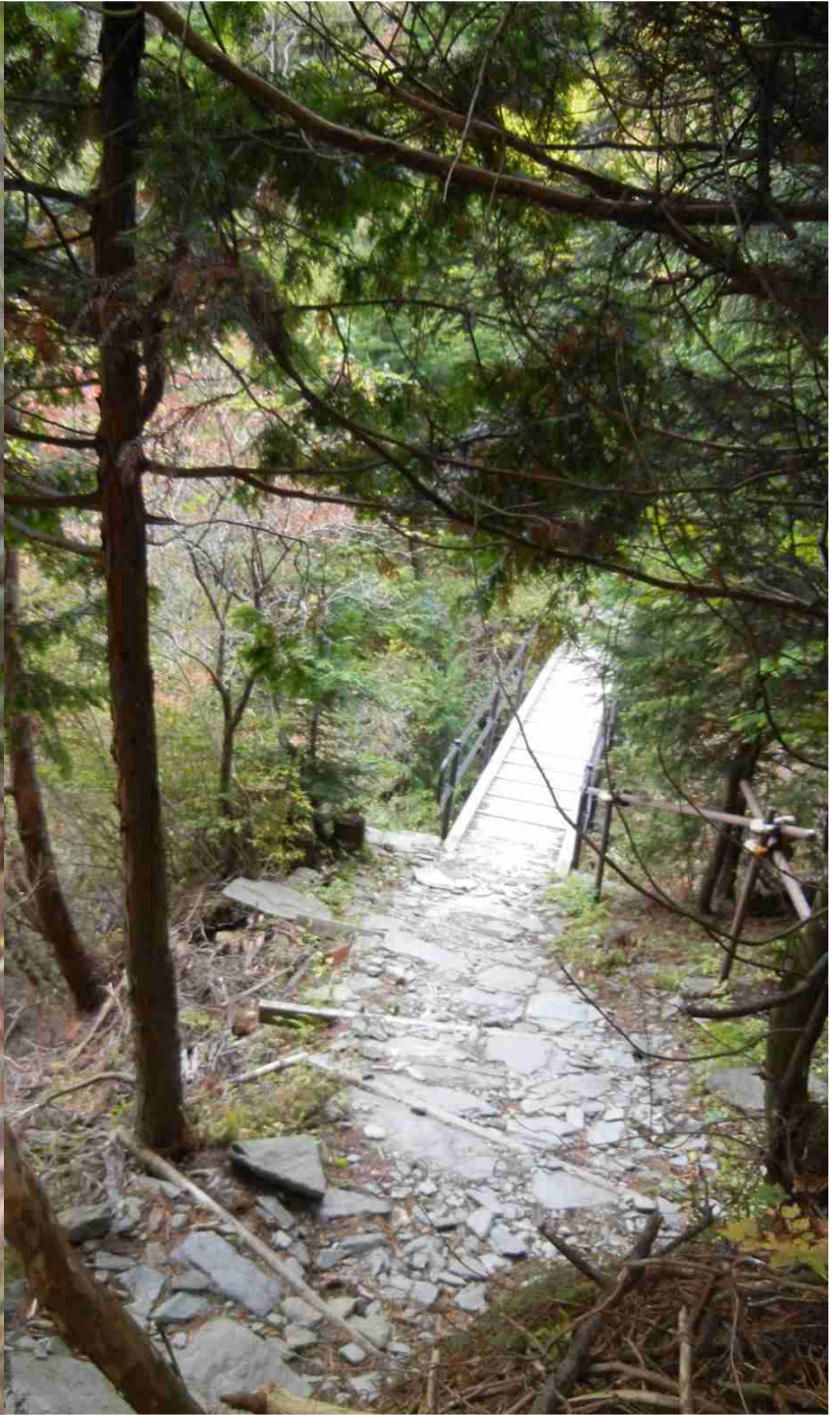
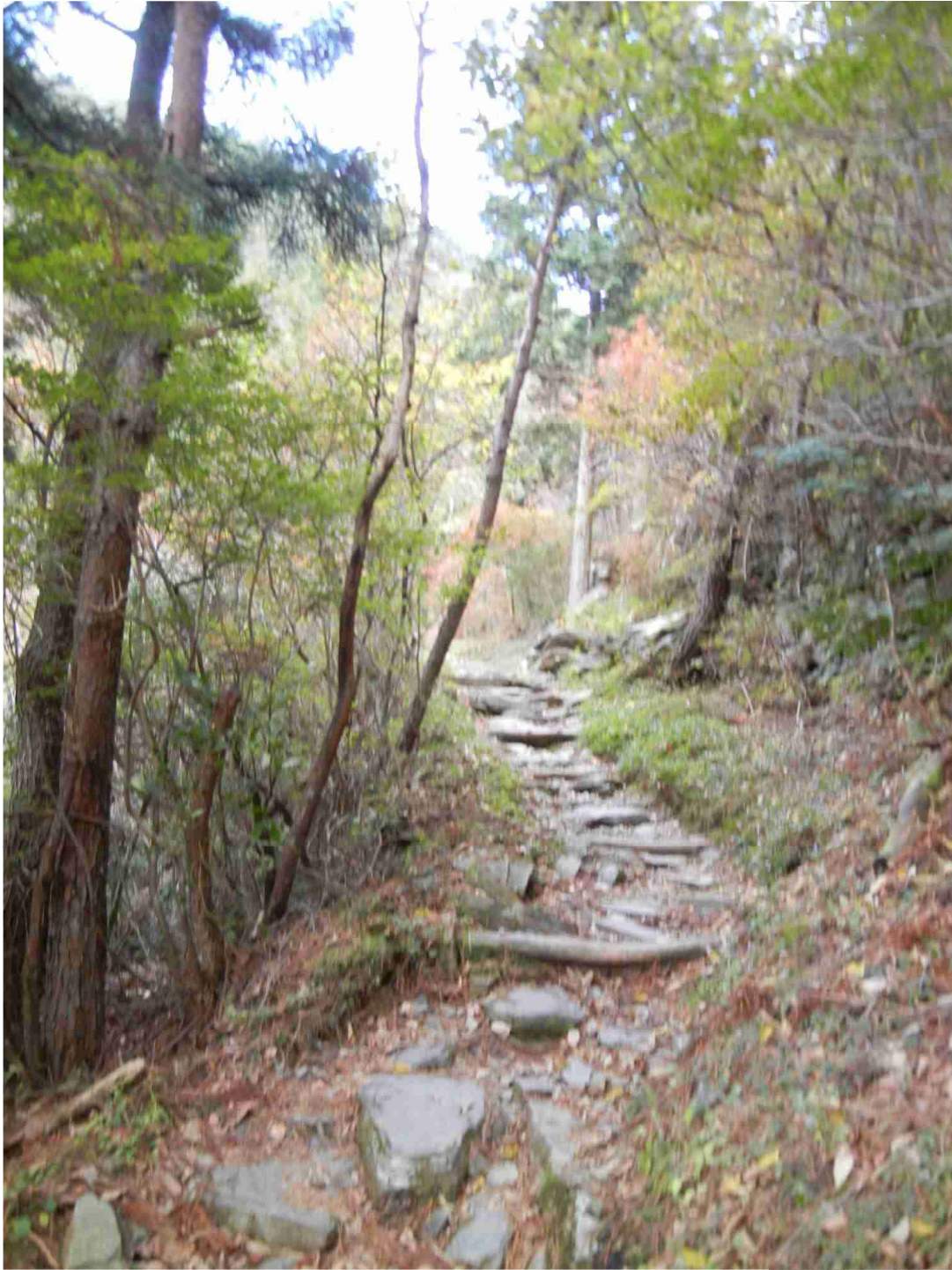
古くはこの辺りの地名はタカバシであったが、明治12年(1879)頃この対岸に洋式の熔鋳炉が建設されてからはヨウコウロと呼ばれるようになった。ところが戦後(昭和20年代)、別子鋳床べっしの他にもう一層ある金鍋鋳床かんなべというのを探し当てるためにボーリング探査を始め、ここでも昭和26年に掘削を行った。予定深度まであと僅かの82mほどの所で水脈に当たり多量の水が噴出し、ジャミングという事故が起きてロッドの先端部分がネジ切れ、掘削不能となった。ダイヤモンドを散りばめた先端部が今も孔底に残っているので、誰言うともなくダイヤモンド水と呼ばれるようになった。

明治10~20年代にかけて対岸の絶壁の上に焼窯という鋳石を焼く所があって、硫黄を取り去った後の鋳石は箱状の桶でこのレベルまで落とし、熔鋳炉に入れて粗銅あらがねを採っていた。最盛期にはこの辺り一帯に製鋳課の施設や木炭倉庫がひしめいていた。

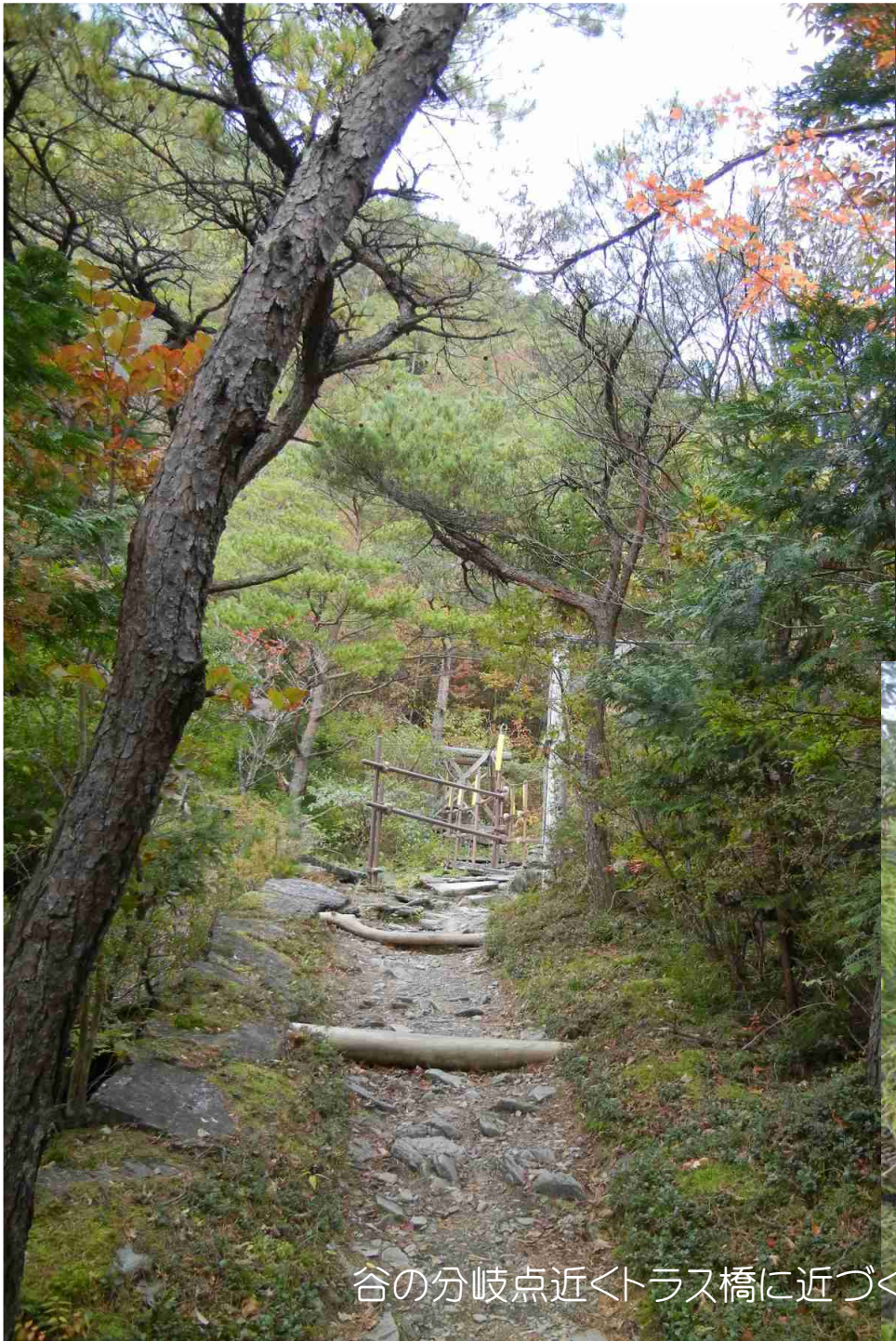












谷の分岐点近くトラス橋に近づくと視界が少し広がる



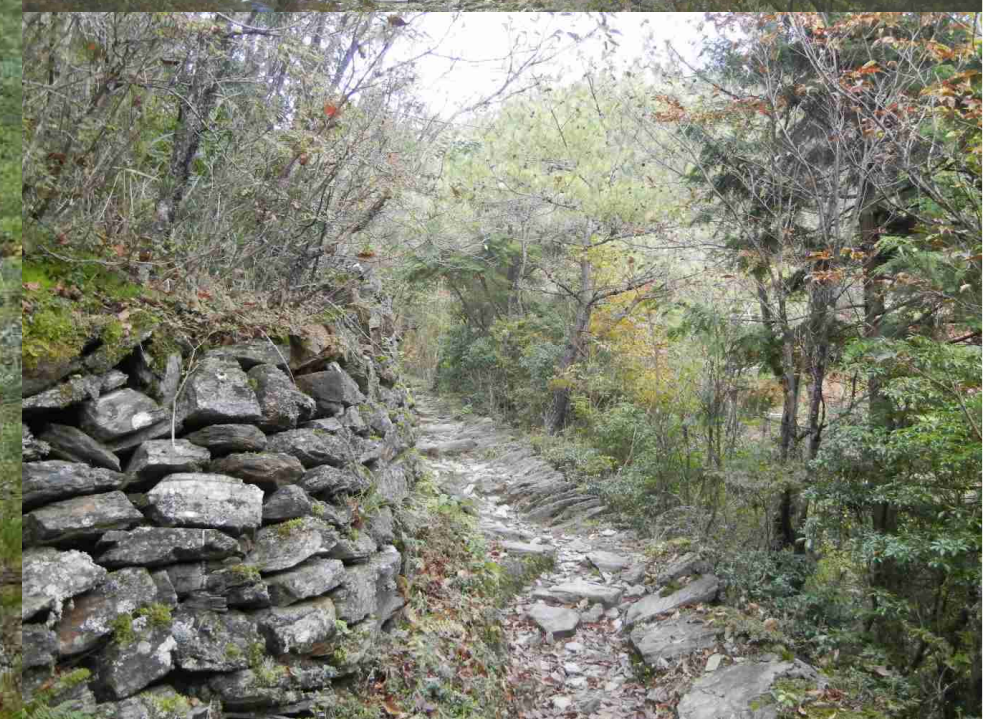
谷の分岐点近くトラス橋 2012.10.27.



谷の対岸に焼鉱炉群跡 かつて銅山最盛期には山は亜硫酸ガスで丸裸で、諸施設も一望されたと思われるが、今は紅葉した自然の中にうずもれている



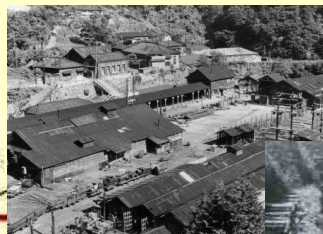
銅山越の尾根筋が見えてきた 2012.10.27.





谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く日
出度町経由の谷筋分岐点 2012.10.27.

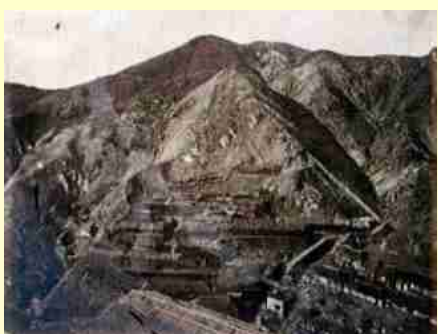




東平の街と
インクライン



銅山越



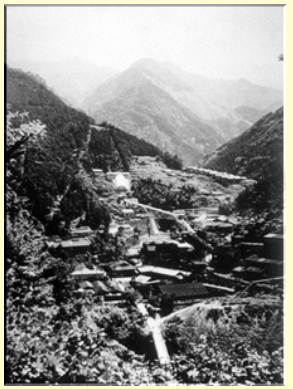
勘場と見花谷



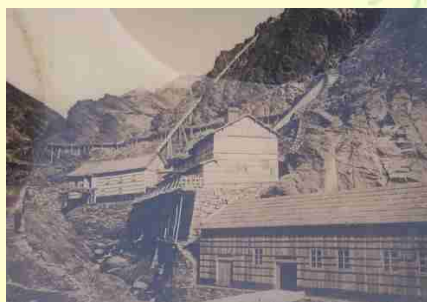
歓喜坑



目出度町鉦山街



端出場

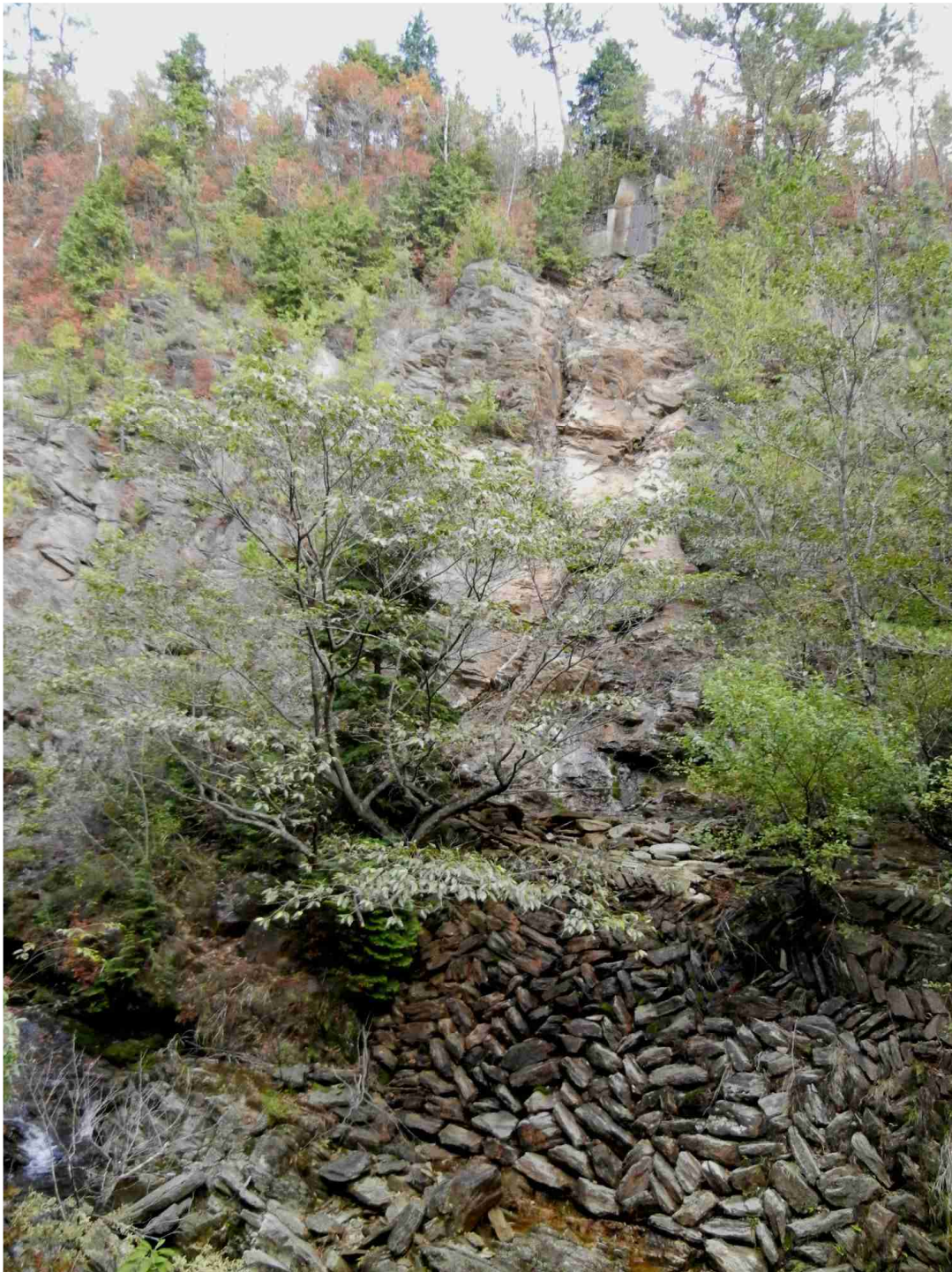


高橋・高橋製錬所



小足谷集落





木方吹所と裏門

明治30年頃の木方吹所（製錬所）を南側から見上げた風景である。中央左寄りに土橋があり、その右下で谷が分かれている。右が足谷川で左の方を奥谷谷という。足谷川に面して右の山側に建ち並ぶのは木方吹所である。この時点では高橋製錬所よりもこちらの方が産出量は多かった。

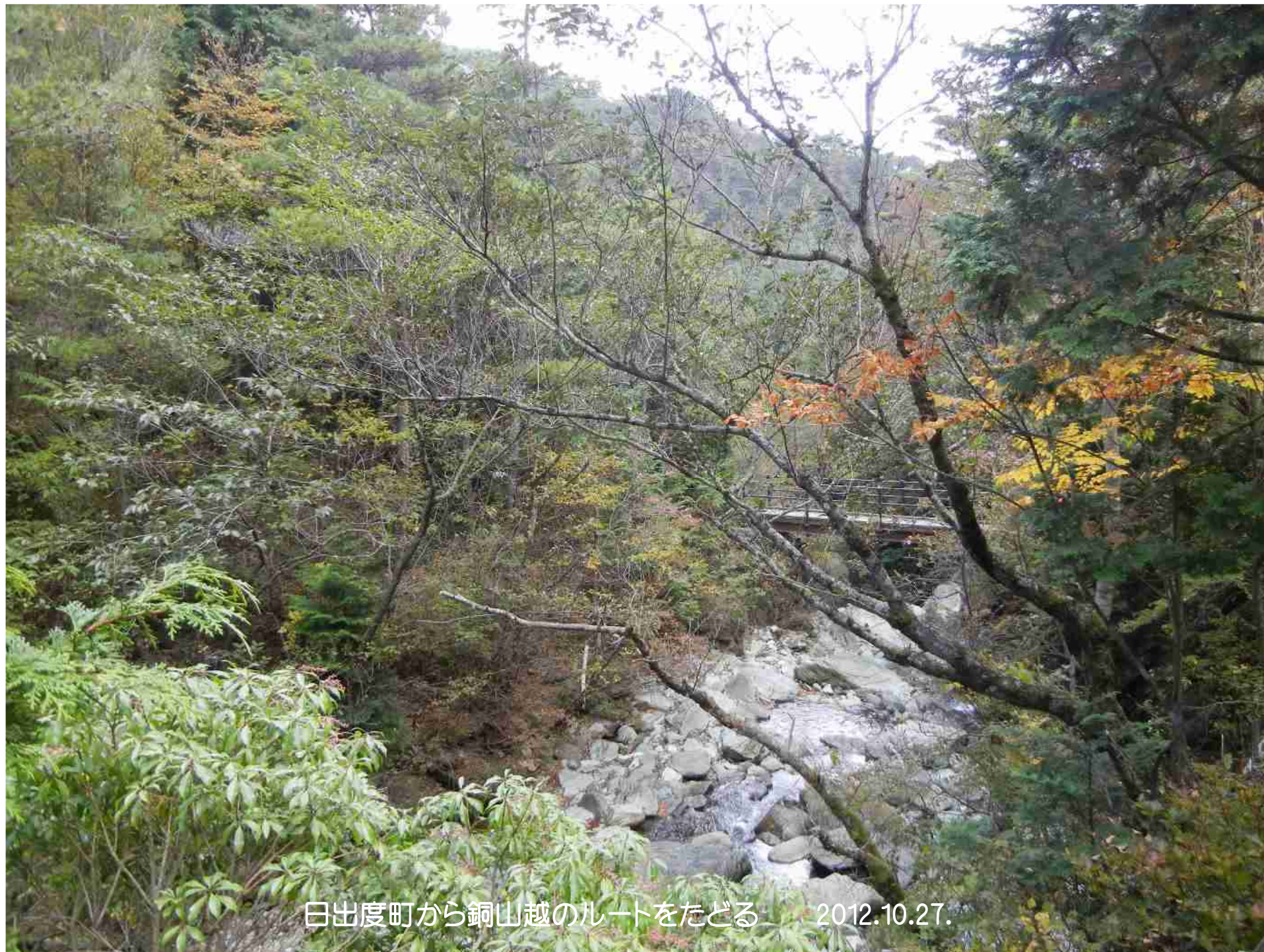
右上から斜めに箱橋が掛り、その左で白樺が上がっているところは明治13年から生産が始った最初の湿式製錬所（沈澱所）の施設であろう。

左の大きな両面石積の向こうは木炭倉庫で、その真上にも石積が天に突き出している。当時の和式製錬では1トンの煎を作るのに4トンもの木炭を使っていた。木炭は食糧に次ぐ貴重な物で、従って製錬や木炭倉庫の建ち並ぶ鉱山の心臓部の入口は石川や堰で厳重に囲まれていた。因みにこの辺りを裏門と呼んでいた。



パイプ橋周辺 谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く日出度町経由の谷筋分岐点
対岸に木方吹所跡 2012.10.27.





日出度町から銅山越のルートをたどる 2012.10.27.







古郡集落跡
1692年
1693年
1694年
1695年
1696年
1697年
1698年
1699年
1700年
1701年
1702年
1703年
1704年
1705年
1706年
1707年
1708年
1709年
1710年
1711年
1712年
1713年
1714年
1715年
1716年
1717年
1718年
1719年
1720年
1721年
1722年
1723年
1724年
1725年
1726年
1727年
1728年
1729年
1730年
1731年
1732年
1733年
1734年
1735年
1736年
1737年
1738年
1739年
1740年
1741年
1742年
1743年
1744年
1745年
1746年
1747年
1748年
1749年
1750年
1751年
1752年
1753年
1754年
1755年
1756年
1757年
1758年
1759年
1760年
1761年
1762年
1763年
1764年
1765年
1766年
1767年
1768年
1769年
1770年
1771年
1772年
1773年
1774年
1775年
1776年
1777年
1778年
1779年
1780年
1781年
1782年
1783年
1784年
1785年
1786年
1787年
1788年
1789年
1790年
1791年
1792年
1793年
1794年
1795年
1796年
1797年
1798年
1799年
1800年

対岸 木方集落跡 今は樹木にうずまっている



枝谷を渡って 日出度町 大山神社跡へ 2012.10.27.

重任局と大山積神社

元禄7年(1694)の大火の後、歡喜間符の隣にあった勘場がここに移され、明治12年に重任局と改称された。明治25年の火災で焼失するまでは銅山の指令所として重要な位置を占めていた。火災のあと重任局は木方に移ったが、その跡は元禄4年より銅山の鎮護の神として奉られていた大山積神社が、対岸の延喜の端から遷座した。

また、モミの大木の向う側には別子山村役場があって村の行政もここで執行されていた。

左の広場には住友新座敷と言う来客接待所があったが、大山積神社の遷座と同時に、その跡が相撲場となり、5月の山神祭には大いに賑わった。

下方一帯は目出度町で商店の他に料亭や郵便局・小学校なども軒を並べ、対岸の一段高い所には住友病院もあった。

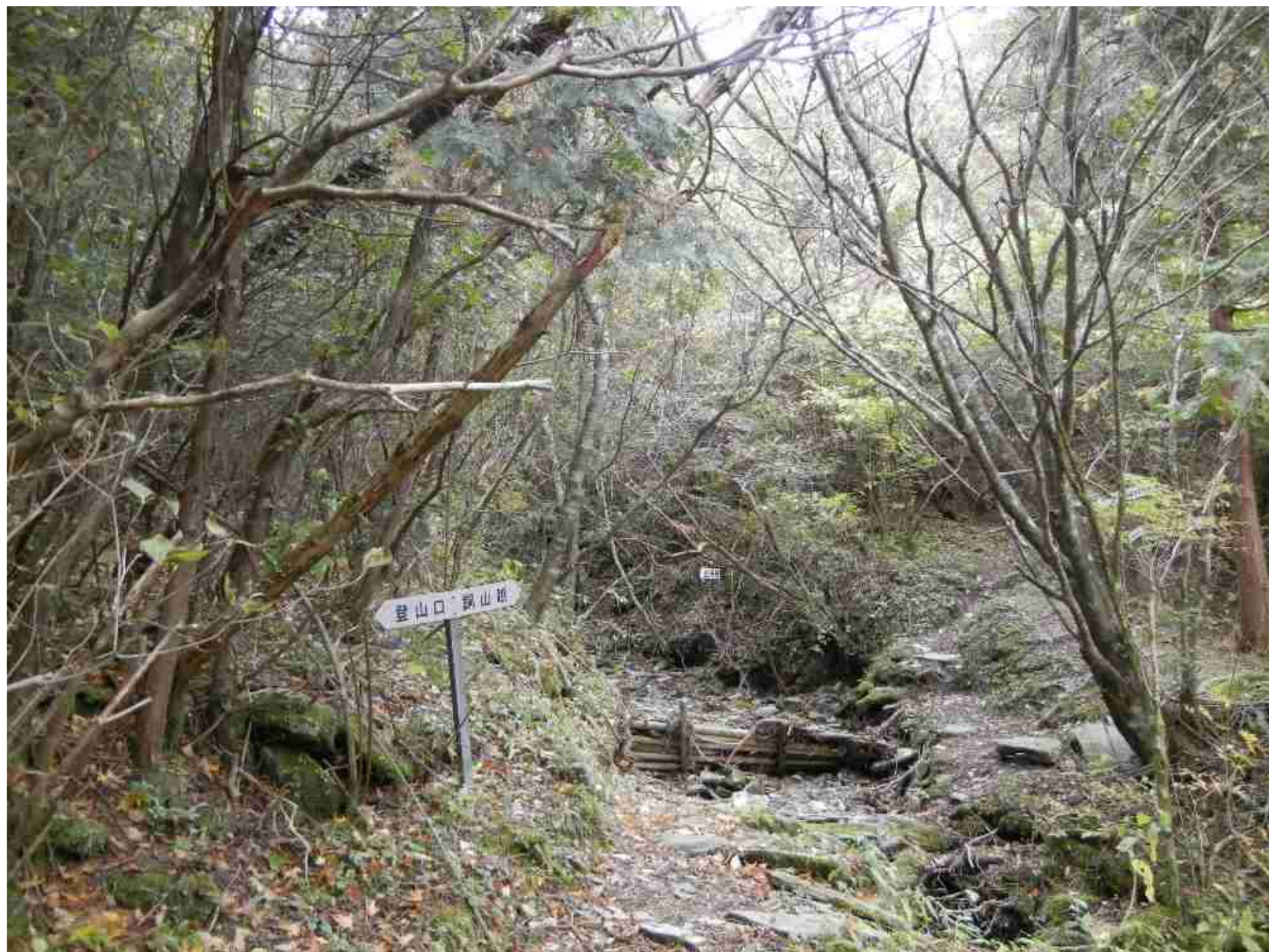




















牛馬道

牛車道は目出度町から銅山越を経て新居浜へ至る牛馬道。

開削は1876年7月頃に着手し、一時、開削を中止。1878年2月、開削を再開させ、1880年11月に、銅山峰から石ヶ山丈を経て立川中宿までの牛車道が完成しました。

銅山越への広い牛馬道にでた 2012.10.27.







登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.



登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.



牛馬道 右手上方に笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標が見えてきた





登って来た小足谷川の最上部 随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.

遠く南東方向 別子ダムの向こう 冠山・平家平の山並が見えている



随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.



笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標



牛馬道 銅山越 尾根筋のすぐ下のトラバース道 2012.10.27.



銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の墓所 蘭塔婆山の遺構が見える
かつて この谷筋には別子銅山の諸施設・街が建ち並んでいた



銅山越直下より 蘭塔婆山の遺構が見える



銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.





銅山越より 日浦から登りつめた小足谷の谷筋 2012.10.27.

この紅葉した樹木の中に旧別子銅山跡が埋まっている



銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.





西赤石山へ
東赤石山へ

西山へ
東山へ

西赤石山を経て東赤石山へ
約4時間

西山を経て笹ヶ峰へ
約5時間



越山銅

銅山越 (標高1,294m)

開坑以来の悲願が叶って元禄15年(1702)別子銅山の粗銅は、ここを越えて新居浜の大江の浜まで2日で運びだせる様になった。それまでは村の東はずれの小箱峠を越えて宇摩郡天満の浦まで2日3日もかかっていた。以来、明治19年に第一通洞が開通するまでの184年間、粗銅と共に山内に住む数千人の食糧も中持人夫に背負われてこの峠を往来した。

しかし、海拔1,300mもある銅山峰は、しばしば厳しい表情を見せ、風雪のため行き倒れた者もあった。峰の地蔵さんは三界万霊、その無縁仏を祠ったものである。その地蔵さんの縁日は旧暦8月24日であった。明治の頃には道筋には幟がはためき、横の舟窪には土俵があって子供相撲に歓声が湧いたという。



新居浜側

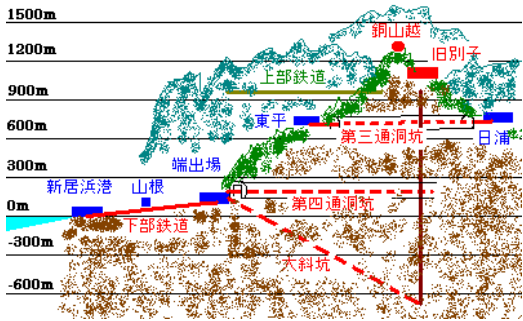
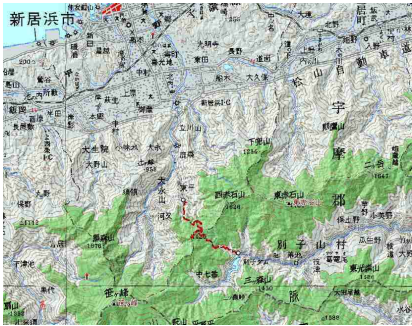
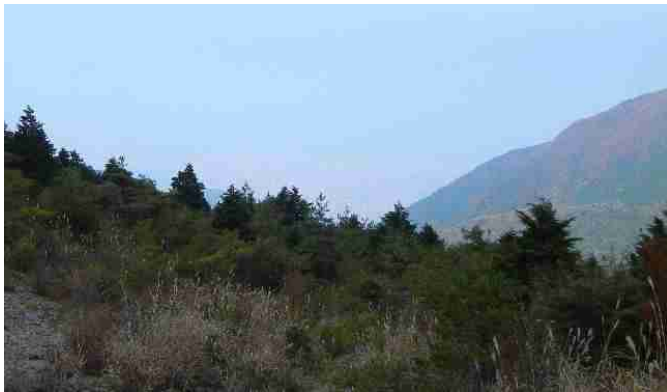
別子山村側



越山銅



銅山越えからの眺望 2012.10.27.





西側からの銅山越・西赤石山の尾根筋





銅山越から眺めた真っ赤に色づいた西赤石の山並 2012.10.27.



銅山越から眺めた新居浜の街と真っ赤に色づいた西赤石山 2012.10.27.



銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平坑から山腹を下る道がある。
今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。
短距離ですが、よくこの道を銅を担いで降りたものだ。
でも 谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。